

外国語科ブロックの研究

【1 概要】

2020 年度の外国語新学習指導要領完全実施の移行期間として、50 時間の外国語の教育課程の中に新教材の活用が入ってきている。完全実施に向けて、今準備しておかなければならないことに取り組んできた。

第5学年・第6学年それぞれが新教材を使つての授業作りを丁寧に行う中で、それぞれの学年から授業提案を行い研究を進めた。全体研究の中で提案された7つの視点の中から2点に焦点を当てて授業作りを行った。

①児童の興味・関心のある題材の設定

授業設計の際、単元の「ゴール」として、英語の表現を学びたいという思いを高めるための活動を設定することが大切である。単元のゴールを設定しそれに向かって必要な表現を練習していくことで、目的が明確になるため児童は意欲的に学習に取り組むようになる。ゴールの設定にあたっては、児童の生活の中から、伝えるための表現を習得したいという意欲を高めるような場面の設定を工夫していくことが重要である。いつも一緒にいる学級担任が主導する価値がそこにあると考える。その上で、必要な表現や語彙を習得できるようになるためのコミュニケーション活動を段階的に設定していく。

②相手意識、目的意識を持たせるコミュニケーション

「聞くこと」は、すべての言語活動の土台であり始まりである。そのため、デジタル教材の使用はもちろんのこと、ALT による生の英語を聞かせる機会を大切に、HRT 自身も積極的に英語を使うことで、より多くの英語を聞くことができるようにする。活動においては、目的設定を大切に、児童が楽しみながら必然性をもって聞くことができるようにする。また、相手の表現を繰り返したり、言い直して確かめたりしながら聞くことが、より豊かなコミュニケーションにつながることを実感させたい。

「話すこと」では、児童が伝えたいと思う内容について、目的をもって話す活動にしている。また、相手を意識することで、「何を」「どう」伝えるのか既習の表現も使いながら考える必然性が出てくる。コミュニケーションの手段である以上、目的を明確にし、相手を意識させることは当然のことであるが、新しい表現の習得にばかり意識がいきまがちな児童に、コミュニケーションの土台として意識させることが大切であると考え。

【2 研究実践①】

第5学年 外国語活動 学習指導案

5年1組担任 弦間 文

ALT Daniel Woosley

1. 単元名 Unit3 「What do you have on Monday?」 学校生活・教科・職業

2. 単元の目標

- ・教科について聞いたり言ったりすることができる。(外国語への慣れ親しみ)
- ・活字体の小文字を識別し、読むことができる。(言語や文化に関する気付き)
- ・学校生活に関するまとまりのある話を聞いておおよその内容を捉えたりすることができる。
(言語や文化に関する気付き)
- ・他者に配慮しながら、時間割やそれについて自分の考えなどを伝え合おうとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

3. 単元について

(児童観)

本学級の児童は、男18名、女子16名、計34名である。4月より外国語活動の学習を始め、一人一人が意欲的に取り組んでいる。本年度は移行措置期間であるため年間50時間の授業時数を設定し、1学期は「Hi, friends! 1」の内容について、甲府市教育委員会が提示する時間配当で学習を進め、2学期より「We can! 1」の学習を始めた。

本学級では、5年生になり初めて外国語に触れる児童も多い。そのため、母語を用いたコミュニケーションを図る際には意識されていなかった、相手の発する言語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようとしたり、持っている知識などを総動員して他者に言語で自分の思いを何とか伝えようとして学習を進めている姿が見られる。児童にとって、言語によるコミュニケーション能力を身につける上では、体験的な活動が重要であり、児童の言語への興味・関心を高めることにつながると考える。このことから本単元では、まだ学習経験の浅い児童において、チャンツやゲームを通し、「聞く」「話す」活動に丁寧に慣れ親しませていきたい。その上で、アクティビティーでは自分の思いを伝える活動を設定し、言語によるコミュニケーションを通して相互理解を図らせたい。さらに、外国語やその背景にある文化に関する気付きについては、社会や世界、他者との関わりに注目して捉えさせる。このことについては、文科省発行による教材において、「Let's Watch and Think」「Let's Listen」「STORY TIME」を活用していきたい。

(指導観)

Unit1 で世界の様子に触れてきた児童にとって、一番身近な学校生活について、他の国ではどのようなになっているだろうと興味関心がわくのは、自然なことである。そこで本単元では、学校生活を題材に学習を進め、世界の子どもたちがどのような学校生活を送っているのか、どのような科目を学習しているのかを知るとともに、自分たちの夢の時間割を考えて発表する。また、学習している事や経験したことが将来の自分の進路を決める際に影響がある事を実感す

るために、ある職業に就くためにはどのような学習をしているとよいかという視点から、オリジナル時間割を作成し、クイズ形式で紹介し合うことが単元の学習のゴールになる。

児童はこれまでの外国語活動で **have** については、実際に何かを持っている（物的所有・所持）場合に限定して、「Do you have ~?」の表現の学習にも触れた。本単元では、具体物や実際に何かを（手に）持つわけではない **have** について学習する。教科名や曜日についても、新出として学習する。これまでに慣れ親しんできたものとは違う用法に出会うことで、児童が混乱しないよう、チャンツや歌、具体的な場면을提示する「Small Talk」などを通して、丁寧に繰り返し慣れ親しませる必要がある。

「読むこと」「書くこと」について「We can! 1」では、英語の文字の名称の読み方を活字体の文字と結びつけ、名称を発音すること、四線上に書くことができるようにするとともに、授業を通して、「十分に音声で慣れ親しんだ簡単な語句」について、読んだり書いたりすることに細かな段階を踏んで慣れ親しませた上で、書き写すことができるようにしていく。本単元では、大文字指導に加え、小文字についての学習を進める。小文字について、その名称読みを聞いて文字がわかることを目指す。既習内容に加えて、名称と発音のマッチングなどをし、児童が楽しみながら読みを進めていけるようにしたい。

4. 該当する新学習指導要領(2020)における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
読むこと	ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
話すこと (発表)	イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	ア 小文字を活字体で書くことができるようにする。*

*この内容については、本実践は外国語活動であるため、「活字体で書かれた小文字の識別ができる」とし、定着は求めない。

5. 単元の評価規準

観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への 慣れ親しみ	言語や文化に 関する気付き
評価 規 準	他者を意識して、自分の作った時間割について伝えたり発表したりしている。	ゲームやチャンツを通して、時間割についての表現や尋ね方に慣れ親んでいる。	世界の小学校と自分たちの学校生活の共通点や相違に気付いたりしている。

6. 表現及び主な言語材料

- Do you have (P.E.) on (Monday)? Yes, I do. / No, I don't.
What do you have on (Monday)? I study (math).
I want to be (a teacher). I want to study (math).
- 教科 (Japanese, English, math, social studies, home economics, calligraphy,

moral education, P.E.), cleaning time, recess,
 職業 (baseball player, doctor, fire fighter, florist, police officer, vet), study, goat
 [既出] 曜日, 教科 (music, arts and crafts, science), teacher, soccer

7. 単元計画 (7時間)

時	目標 (◆) と主な活動 (【 】, ○) 【 】, ○ = 誌面化されている活動	◎評価の観点<方法>
1	<p>◆曜日や教科について尋ねたり答えたりできる。</p> <p>【Let's Watch and Think 1】 p.18, 19</p> <ul style="list-style-type: none"> 映像を見て, 世界の学校について分かったことを誌面に記入する。 聞き取れた言葉や, 分かったことを発表する。 <p>○何曜日かな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室にある時間割を見て, 何曜日にどんな教科があるかを確認する。 <p>【Let's Sing】 Sunday, Monday, Tuesday p.20</p> <p>○ミッシング・ゲーム (教科名)</p> <p>【Let's Chant】 What do you have on Monday? オプション(Subjects) p.22</p> <p>【Let's Listen】 p.20</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声を聞いて, それがどの曜日かを考えて記入する。 <p>【Jingle】 Alphabet Jingle p.22</p> <ul style="list-style-type: none"> Alphabet ジングル (バージョン 1) を聞く。 アルファベット順に, 始まる単語やその音に注意しながら全員で分かる部分だけ言う。 	<p>※本時の目標に向けて指導は行うが, 評価の記録は次時に合わせて行う。</p>
2	<p>◆学校生活に関するまとまりのある話を聞いて, おおよその内容を捉えるとともに, 教科や曜日について尋ねたり 答えたりできる。</p> <p>○ Small Talk : 好きな教科</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導者の話を, 反応を示したり, 質問について考えたり答えたりしながら聞く。 <p>【Let's Sing】 Sunday, Monday, Tuesday p.20</p> <p>○ビンゴ・ゲーム</p> <p>【Let's Play】 p.20</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアで取り組む。1人が, 1週間の時間割の中から好きな曜日を1つ決め, 相手が Do you have ~ on ~? と尋ね, どの時間割を選んだかを考えて答える。 <p>【Let's Watch and Think 1】 p.18, 19</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の子供たちがどのような科目を学習しているかを知り, 自分たちの学習との相違点や共通点に気付く。 	<p>◎教科や曜日について尋ねたり答えたりしている。<行動観察・振り返りカード点検></p> <p>◎世界の同世代の子供たちの学校生活に関するまとまりのあ</p>

	<p>【Jingle】 Alphabet Jingle p.22</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Alphabet Jingle を言う。黒板に掲示した小文字のアルファベット文字 カード（その初頭音で始まる絵が描かれている）をみんなで順番に言う。 	<p>る話を聞いて、自分たちとの相違点や共通点を聞き取り、ワークシートに記入している。〈行動観察・記述分析・振り返りカード点検〉</p>
3	<p>◆学校生活に関するまとまりのある話を聞いて、おおよその内容を捉えるとともに、教科や曜日について尋ねたり 答えたりできる。</p> <p>【Let's Sing】 Sunday, Monday, Tuesday p.20</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 映像を見ながら歌う。 <p>【Let's Watch and Think 2】 p.21</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 映像を見て、世界の子供たちがどんな時間割で学んでいるか、分かったことをワークシートに記入する。 <p>【Let's Play】 p.20</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで取り組む。1人が、1週間の時間割の中から好きな曜日を1つ決め、相手が What do you have? と尋ね、どの時間割を選んだかを考えて答える。 <p>【Let's Chant】 What do you have on Monday? p.22</p> <p>【Jingle】 Alphabet Jingle p.22</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板に掲示したアルファベット小文字を見て、ジングルのリズムに合わせて言う。 ・ クラスを半分に分け、最初半が a/ei/と言った後、あとの半分は /æ/, /æ/apple とキーワードを言う。 	<p>◎学校生活に関するまとまった話を聞いておおよその内容を捉えている。〈行動観察・記述分析・振り返りカード点検〉</p> <p>◎教科や曜日について尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>
4	<p>◆時間割について、進んで尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。</p> <p>○ Small Talk : 持っている物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者の話を、反応を示したり、質問について考えたり答えたりしながら聞く。 <p>【Let's Chant】 What do you have on Monday? p.22</p> <p>【Activity 1】 p.22</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と時間割を紹介し合う。「誰の時間割かな？」 <p>【Jingle】 Alphabet Jingle p.22</p>	<p>◎教科について尋ねたり答えたりして伝え合っている。〈行動観察・記述分析・振り返りカード点検〉</p>
5	<p>◆時間割やそれについての自分の考えなどの話を聞いてそのおおよその内容を捉え</p>	

	<p>る。 ◆活字体の小文字を識別し、読むことができる。</p> <p>○ Small Talk : 家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の話を、反応を示したり、質問について考えたり答えたりしながら聞く。 <p>【Let's Chant】 What do you have on Monday? p.22</p> <p>○ Go fish Game ・グループで Go fish Game を行う。</p> <p>【Let's Watch and Think 3】 p.23</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像を視聴し、登場人物と将来の夢、オリジナル時間割を線で結ぶ。 <p>【Activity 2】 p.24</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある職業に就くための時間割を考え、オリジナル時間割も含めて完成させる。 <p>○ ペアを探せ！ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに大文字と小文字をマッチさせる。 	<p>◎時間割やそれについての自分の考えなどの話を聞いてそのおおよその内容を捉え、線で結んでいる。</p> <p><行動観察・記述分析・振り返りカード点検></p> <p>◎活字体の小文字を識別し、その文字を大文字と対にして読んでいる。</p> <p><行動観察・振り返りカード点検></p>
6	<p>◆時間割について伝え合う。</p> <p>◆活字体の小文字を識別し、読むことができる。</p> <p>【Let's Chant】 What do you have on Monday? p.22</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンツを言う <p>○ anz ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～5人グループで活動する。 <p>【Activity 2】 p.24</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成したオリジナル時間割を班の人に紹介する。 ・次時のクイズ練習をかねて、班の中でペアを替えながら何度か行う。 <p>○ ペアを探せ！ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに大文字と小文字をマッチさせる。 	<p>◎活字体の小文字を識別し、読んでいる。</p> <p><行動観察・振り返りカード点検></p> <p>◎時間割について尋ねたり答えたりして、伝え合っている。</p> <p><行動観察・振り返りカード点検></p> <p>◎活字体の小文字を</p>

		識別し、その文字を大文字と対にして読んでいる。<行動観察・振り返りカード点検>
7	◆他者に配慮しながら、時間割やそれについての自分の考えなどを伝え合おうとする。	
	<p>【Let's Chant】 What do you have on Monday? p.22</p> <p>【Activity 2】 p.24</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成したオリジナル時間割をクイズ形式で紹介する。 ・オリジナル教科についても紹介する。 <p>○I spy ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、1人がアルファベットの名称を言い、もう1人が Alphabet Jingle チャートあるいは、児童用カード(大文字・小文字)にあるその文字をさし示す。 <p>【STORY TIME】 p.25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせを聞く。 	<p>◎他者に配慮しながら、教科について尋ねたり答えたりして、伝え合っている。</p> <p><行動観察・振り返りカード点検></p>

8. 校内研究との関わり

(1) 単元におけるゴールの明確化

授業設計の際、単元の「ゴール」として、英語の表現を学びたいという思いを高めるためのコミュニケーション活動を設定することが大切である。単元のゴールに設定されたコミュニケーション活動を行うために、必要な表現や語彙を使うことができるようになるための活動を段階的に設定していく。活動においては、ゲームの楽しさだけでなく、児童の知的好奇心を満たし考える場面のある活動を工夫していきたい。

単元におけるゴールを明確にして単元構成をバックワードデザインし、以下のように計画した。

- ①単元終末に設定されたゴールを知り、そのために必要な新しい表現に出合う活動
- ②新しい語彙や表現に慣れる活動
- ③表現（やり取り）により慣れる活動
- ④友達と協力して課題を達成するコミュニケーション活動

単元のゴールを設定し、それに向かって必要な表現を練習していくことで、目的意識が明確になるため、児童は意欲的に学習に取り組むようになる。単元のゴールを設定しながらレッスンプランを立て、「何のために」「何を」行うのかを、児童の実態に合わせて検討した。同じゴールであっても、扱う表現や語彙は学級の児童の実態に合わせて修正することも必要であり、

それを行うことができるのは担任である。担任が授業を設計し主導する価値はここにあると思う。

(2) 相手意識, 目的意識を持たせるコミュニケーション

「聞くこと」の言語活動は、すべての言語活動の土台であり、始まりである。そのため、デジタル教材の使用はもちろんのこと、指導者自身が積極的に英語を使い、児童が豊富に英語を聞くことができるようにする。活動においては、目的設定を大切に、児童が楽しみながら必然性をもって聞くようにする。また、相手の話を繰り返したり、言いなおして確かめたりしながら聞くことを活動を通じて指導し、そのような聞き方がより豊かなコミュニケーションにつながるものであるということを実感させたい。

「話すこと」の言語活動では、児童が伝えたいと思う内容について目的をもって話す活動にする。同じ言語材料を用いて、話題を変えながら繰り返し使用させ、定着を促す指導過程にする。慣れ親しみは、思考を伴うゲームを活用して楽しく行う。最初から正確な発話を求めず、何回も繰り返して聞かせる活動を丁寧に行いながら、多くの児童に共通する誤りは取り上げて全体指導を行いたい。

9. 本時の授業

(1) 日時 平成30年10月22日 (月) 5校時

(2) 場所 5年1組教室

(3) 目標 ・時間割について、進んで尋ねたり答えたりしている【コ】

(4) 展開

時間	児童の活動	指導者の活動 (◎評価方法)	準備物
(1)	○挨拶をする	<ul style="list-style-type: none"> ・相互に挨拶をし、明るい雰囲気の中で学習ができる雰囲気を作る。 ・指導者が持っているものについて話す。 ・一方的に話すのではなく、児童を会話に巻き込みながら話すようにする。 ・have の用法について、STを通して色々な物があることに気付かせる。本時は、have (持っている) を繰り返し使用し、その用法の意味理解を図る。 ・既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図り、対話の続け方を身につけ 	鞆・腕時計など
(5)	○ Small Talk : 持っている物		

T : Look. This is my bag.
 What do I have in my bag?
 S1: Pencils?
 T : Pencils? Good idea.
 I'm sorry.
 What do I have in my bag?
 S2: A watch?
 T : A watch? Great!
 That's right.

など

		させく。 ◎まとまりのある話を聞いて、大まかな内容を捉えることができたか。 <行動観察・振り返りシート>	
(3)	○学習目標の確認をする		
友達の時間割を尋ねたり，自分の時間割を答えたりしよう			
		・ Show & Tell (単元のゴール) につながる活動であることを確認する。	
(5)	【Let's Chant】 What do you have on Monday? p.22 ・映像を見ながらチャンツをする。 ・速さを変えて2回行う。	・児童と一緒に活動する。 ◎時間割について尋ねたり答えたりする言い方に慣れ親しむことができたか。【慣】	デジタル教材
(5)	○時間割（月曜日）を紹介しよう ・活動のモデルを提示する ①提示された時間割を見て，どの先生がつくったものか予想する。 ③教師のやりとりを見る。	・どの先生が作った時間割か予想することで，相手意識や目的意識を持ったやりとりができることを確認させる。	ワークシート
(15)	・手元にある時間割が誰のものなのか，友達にインタビューをしながら明らかにする。 ・活動を前半と後半に分け，途中で活動の振り返りを行い，後半の活動を充実させていく。	・児童の活動の中に入り，英語の修正を行う。 ・相手にわかりやすいように，教科をはっきりと話したり，聞き取ったことを繰り返して確かめたりするこ	

<p>A : Hello. B : Hello. A : What do you have on Monday? B : I have Math , P.E. , English and Music on Monday. A : Thank you. B : You're welcom. A : Bye. B : Bye.</p>			
		<p>◎進んで時間割について尋ねたり答えたりしているか。 【コ】 <行動観察・ワークシート点検・振り返りカード点検></p>	
(5)	<p>○振り返り ・活動を振り返り，ワークシートに記入する。</p>	<p>・本時の学習を振り返り，学習を通して達成できたことや課題を明らかにさせ，次時への学習につなげる。</p>	振り返りカード
(6)	<p>○アルファベットジングル 【J】 Alphabet Jingle p.22 (p.76) ・それぞれの文字で始まる単語やその音に注意しながら言う。</p>	<p>・文字が持つ音のうち，代表的な物を取り上げる。 ・小文字を見てリズムに合わせて言わせる。</p> <p>◎活自体の小文字を識別し，その文字を読むことができたか。【気】 <行動観察></p>	デジタル教材
(1)	<p>○挨拶をする</p>		

(5) 評価規準

①時間割について，進んで尋ねたり答えたりすることができた **【コ】**

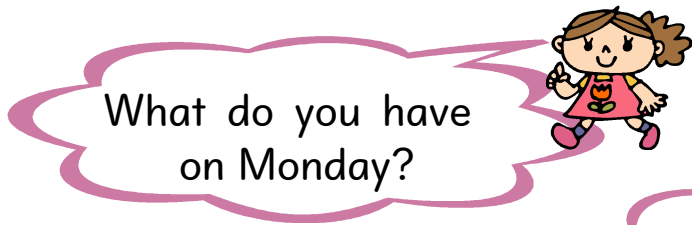
<行動観察・インタビュー・ワークシート点検・振り返りカード>

誰の
時間割 かな？

サイン😊

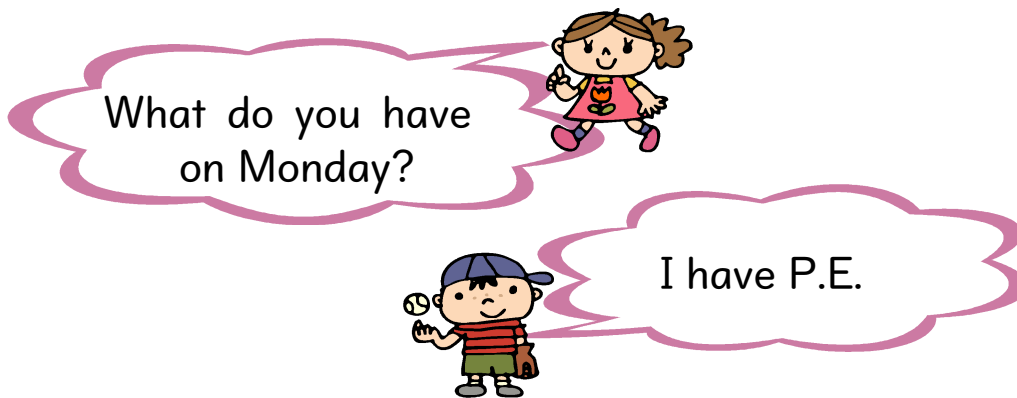
1	
2	
3	
4	
5	

理由



1	
2	
3	
4	
5	

理由



名前

10. 成果と課題

【成果】

・本授業では、2つの言語活動の実践を行った。1つは、言語材料を子どもが理解したり練習したりする活動、つまり、言語や表現について理解したり練習したりする活動である。もう一つは、子どもが自分の気持ちや考えを言葉（外国語）をやりとりして伝え合う活動である。これらを体験的に学べるような授業の工夫を図ることができた。

・外国語科では、言語の音声や文字などについて、文字を読むことや書くことを意識した内容になっている。そのため、今まで以上に慣れ親しみの活動を丁寧に行い、自信を持って活動ができるように配慮した。その結果、基礎的な技能が身に付き、児童において、外国語の知識や能力を定着させることを意識した指導内容を研究することができた。

・思考力・判断力・表現力等については、具体的な課題等の設定やコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明らかにした上で、必然性のある言語活動を行う必要があることが、1学期の学習より共通理解を図ることができた。研究授業でも、その点を考慮した活動を工夫した。

・「We can!」では、「聞く」活動が増える新教材が導入されている。全てを理解するのではなく、場面や聞こえてきた語彙から表現の意味を子どもたちが推測して、理解することができる教材であるということが、実践を通して理解できた。

【課題】

・外国語科の「読むこと」「書くこと」の内容の取扱いについては、音声で十分慣れ親しんだ表現等を使う必要がある。

・言語材料については、発達の段階に応じて、児童が受容するもの（聞いたり読んだりして分かればよい言語材料）と発信するもの（話したり、書いたりして表現するために使える言語材料）があることに留意して指導する必要がある。

・文及び文構造の指導に当たっては、文法の用語や用法の指導に偏ることがないように配慮して、コミュニケーションの中での基本的な表現として、繰り返し触れることを通して指導する必要がある。

児童記入のワークシート

誰の **時間割** かな? サイン②

1	算数
2	社会
3	理科
4	理科
5	図工

理由 好きな教科で理科に属する科目だから。図工は観察の絵に役だから。算数は計算に役だから。

What do you have on Monday? I have P.E.

Your Name _____

誰の **時間割** かな? サイン④ Y.Y

1	国語
2	英語
3	図書
4	体育
5	PC

理由 自分の将来の夢が決ま、ていないのでいろいろな教科にチャレンジしたいからこの1日しました

What do you have on Monday? I have P.E.

Your Name _____

誰の **時間割** かな? サイン①

1	PC
2	PC
3	図書
4	道徳
5	体育

理由 将来アニメーション製作をしたいのでPCに慣れておく。図書で作品の良いところ覚える。道徳は友達になれる。運動は楽しい。

What do you have on Monday? I have P.E.

Your Name _____

【3 研究実践②】

第6学年2組 外国語活動学習指導案

指導者 HRT 岩下 和美

ALT Daniel Woosley

1 単元名 Lesson 8 What do you want to be ? 「夢宣言」をしよう
(Hi, friends ! 2)

2 単元の目標設定

○積極的に自分の将来の夢について交流しようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

○どのような職業に就きたいかをたずねたり，答えたりする表現に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

○世界にはさまざまな夢を持つ同年代の子どもがいることを知り，英語と日本語での職業を表す語の成り立ちを通して，言葉のおもしろさに気づく。

【言語や文化に関する気付き】

3 指導観

(児童観)

本学級の児童は，5年生で年間35時間，6年生で年間50時間の外国語活動の学習をしてきている。第5学年では，「あいさつ」「自己紹介」「日常生活」など，身近な話題を通して友達との関わりを深めながら，外国語によるコミュニケーション活動に取り組んできた。第6学年ではこれまで，第5学年での経験を基に，第三者について語ったり，過去の経験を伝えあったりしながら表現の幅を広げるとともに，世界へのつながりや広がり視野に入れた活動を進めてきた。自分の夢に向かって努力を続ける中で，外国語の必要性を認識していることや，新しい知識を得ることに高い関心をもつ学級の雰囲気から，外国語の学習を楽しみにしている様子が伺える。しかし，やり取りや即興的な表現にはまだまだ慣れていない。既習表現を使って会話を少しずつつなぎ，会話に膨らみをもたせることが課題である。

(指導観)

本単元は，2年間の外国語活動のまとめの段階として「将来の夢」を題材に設定し，自分の夢を理由を含めて発表することをゴールとする。「What do you want to be ?」「I want to be a ～. I'm good at ～.」などの表現を使い，やり取りを楽しむ場面を設定しながらスピーチへとつなげていく。卒業が間近に迫り，これまでの小学校生活を振り返りながら中学校での生活や自分の進路について考えるこの時期に「将来の夢」を扱うことになる。自分の夢だけでなく，世界の子どもの夢にも触れる中で，未来への展望を世界にも広げていきたい。また，夢について考えることで，働くことの喜びや目的を考えさせるなど，キャリア教育にもつなげていきたいと考えている。

3月に英語の出前授業の講師として来校する中学校の先生に，夢を聞いてもらおうという設定で，夢の紹介をするスピーチを考えさせる。聞いたり話したりする中で表現に十分に慣れ親しんでから原稿を作成していく。ここでは，自分の思いだけでなく伝える相手を知りたいことを取り入れるために，ペアでやり取りをしながら表現方法を工夫させていく。既習の表現を使いながら，

よりうまく伝えるための表現を互いに補いながら試行錯誤する中で、内容や表現方法に膨らみを出させたい。相手を意識することをさらに進めるため、できあがったスピーチをさらに周りのペアと聞き合いアドバイスし合う。また、伝えることの目標に向かって、ゆっくり話すことや表情とともに図工で扱っている「夢の職業を形にしよう」の立体作品を提示するなどの工夫を取り入れさせていく。

4 言語材料

○表現（児童の発語）

What do you want to be? I want to be a teacher.

○語彙（児童が扱う語彙）

職業（doctor, cook, farmer, florist, singer, firefighter, soccer player, bus driver, cabin attendant, vet, zookeeper, comedian, baker, dentist, artist）

5 該当する新学習指導要領（2020）における領域別目標

聞くこと	イ	ゆっくりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について具体的な情報を聞き取ることができる。
読むこと	イ	音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと 「やり取り」	イ	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
話すこと 「発表」	ウ	身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	イ	自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

6 単元の評価基準

【コミュニケーションへの 関心・意欲・態度】	【外国語への慣れ親しみ】	【言語や文化に関する気付き】
進んで自分の将来就きたい職業について話をしたり、友達の夢の職業を尋ねたりしようとする。	”What do you want to be?” ”I want to be ~.” という表現に親しみ、夢の職業とその理由などを伝えている。	世界には様々な夢をもつ同年代の子どもがいることや、職業を表す語について英語と日本語の共通点や相違点に気付いている。

7 単元計画 (4. 5時間)

時	目標〈◆〉と主な活動〔I〕, O)	◎評価の観点〈方法〉
1	<p>◆様々な職業の言い方を知る</p> <p>○ Small Talk : 行きたい国 ○ジェスチャークイズ ○職業を表す表現の共通点を考える。 ・職業の言い方には「- st」や「- er」があることに気付く。 ○ミッシングゲーム ○カード並べゲーム 【Let's chant】 What do you want to be ?</p>	<p>◎職業の英語での言い方に興味をもち、日本語との違いに気付く。 〈行動観察, 振り返りカード〉 ◎職業を表す言葉について成り立ちの特徴に気づいている。 〈振り返りカード〉</p>
2	<p>◆様々な職業の言い方に慣れ親しみ、職業を表す語について英語と日本語の共通点に気づく。</p> <p>○ Small Talk : 行きたい国 【Let's chant】 What do you want to be ? ○カード取りゲーム 【Let's Listen】「だれの夢か、考えよう。」 ・将来の夢を聞き、だれの夢か聞き取る。 ○ステレオゲーム 【Let's Watch and think 2】「将来の夢について分かったことを書こう」 ・外国に住む子ども達の夢について聞き取り分かったことを書く。</p>	<p>◎様々な職業を表す英語を聞いたり言ったりしている。 〈行動観察, 振り返りカード〉</p>
3	<p>◆世界には様々な夢をもつ同年代の子どもがいることに気づき、就きたい職業について、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>○ Small Talk : なりたい職業 【Let's chant】 What do you want to be ? 【Let's Watch and think 3】「将来の夢について分かったことを書こう」 ・外国に住む子ども達の夢を聞き、住む環境によって夢が変わったりすることや自分たちと共通の夢を持っていたりすることに気付く。 ○チェーンゲーム</p>	<p>◎世界の子ども達も夢を持って生活していることに気づいている。 〈行動観察, 振り返りカード〉 ◎夢の職業について尋ねたり答えたりしている。 〈行動観察, 振り返りカード〉</p>

	<p>○ポインティングゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校で入りたい部活の表現を知る。 <p>【Activity】 あなたの「夢宣言」をしよう（書く）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来どんな職業に就きたいかを文例に合わせて書く。 	
4 （ 本 時 ）	<p>◆夢の職業について伝え合い、自分の思いがはっきり伝わるように発表の仕方を工夫する。</p> <p>○ Small Talk：なりたい職業</p> <p>【Let's chant】 What do you want to be？</p> <p>【Let's Listen】 「だれの夢か、考えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢に質問し合う様子を聞きながら、登場人物の将来の夢とその理由について書く。 <p>【Activity】 あなたの「夢宣言」をしよう（やり取り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで、夢の職業を発表するとき、どんなやり取りをしようか工夫する。 	<p>◎夢の職業について伝え合い、自分の思いが効果的に伝わるように発表の仕方を工夫している。</p> <p>〈行動観察，振り返りカード〉</p> <p>◎夢の職業について英語を用いて伝える表現に慣れ親しんでいる。</p> <p>〈行動観察〉</p>
5 （ 1 / 2 h ）	<p>◆ ”Where do you want to be?” ”I want to be ～.” という表現を使い、将来就きたい職業とその理由などを伝える。</p> <p>○スピーチ</p> <p>【Let's Listen】 「中学校の先生に、夢（やりがい）を聞いてみよう」</p>	<p>◎ ”I want to be ～.” に親しみ、夢の職業とその理由を伝えている。</p> <p>〈行動観察，振り返りカード〉</p>

8 校内研究との関わり

（1）単元におけるゴールの明確化

授業設計の際、単元の「ゴール」として、英語の表現を学びたいという思いを高めるための活動を設定することが大切である。単元のゴールを設定しそれに向かって必要な表現を練習していくことで、目的が明確になるため児童は意欲的に学習に取り組むようになる。ゴールの設定にあたっては、児童の生活の中から、伝えるための表現を習得したいという意欲を高めるような場面の設定を工夫していくことが重要である。いつも一緒にいる学級担任が主導する価値がそこにあると考える。その上で、必要な表現や語彙を習得できるようになるためのコミュニケーション活動を段階的に設定していく。

単元におけるゴールを明確にして単元構成をバックワードデザインし、以下のように計画した。

①単元終末に設定されたゴールを知り、そのために必要な新しい表現に出会う活動

- ②新しい語彙や表現に慣れる活動
- ③表現（やり取り）により慣れる活動
- ④友達と協力して課題を達成する活動

(2) 相手意識、目的意識を持たせるコミュニケーション

「聞くこと」は、すべての言語活動の土台であり始まりである。そのため、デジタル教材の使用はもちろんのこと、ALT による生の英語を聞かせる機会を大切にし、ホームルームティーチャー自身も積極的に英語を使うことで、より多くの英語を聞くことができるようにする。活動においては、目的設定を大切にし、児童が楽しみながら必然性をもって聞くことができるようにする。また、相手の表現を繰り返したり、言い直して確かめたりしながら聞くことが、より豊かなコミュニケーションにつながることを実感させたい。

「話すこと」では、児童が伝えたいと思う内容について、目的をもって話す活動にしていく。また、相手を意識することで、「何を」「どう」伝えるのか既習の表現も使いながら考える必然性が出てくる。伝えたい情報を取捨選択する必要に迫られる。コミュニケーションの手段である以上、目的を明確にし、相手を意識させることは当然のことであるが、新しい表現の習得にばかり意識がいきってしまいがちな児童に、コミュニケーションの土台として意識させることが大切であると考えられる。

9 本時の指導案

○本時の目標

- ・夢の職業について伝え合い、自分の思いが効果的に伝わるように発表の仕方を工夫する。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】〈行動観察，振り返りカード〉
- ・夢の職業について英語を用いて伝える表現に慣れ親しむ。
【外国語への慣れ親しみ】〈行動観察〉

○準備物 掲示用フレーズカード，デジタル教材，児童用テキスト，教師用絵カード，児童用ワークシート，振り返りカード，児童の図工の作品，掲示用会話文

○本時の展開 (4 / 4.5 時間)

時間	児童の活動	指導者(HRT・ALT)の活動と使用英語例	準備物
2分	[Greeting] 挨拶をする。	・全体に挨拶をして HRT・ALT がそれぞれ個別に挨拶をする。 T:How are you , today ? S:I'm fine. T:Why? S: . . .	
6分	[Warming up] (Review)		掲示用

	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの覚えた表現を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の表現の中から質問をし、表現の定着をはかる。 <div data-bbox="349 264 917 739" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>HRT : Where do you want to go? ALT : I want to go to Los Angeles. I like baseball. I want to see baseball. HRT : What team do you like? ALT : I like Angels. HRT : Who is your hero? ALT : My hero is Shohei Otani. He can pitch and hit very well.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT とともに発音を確認しながら、赤字の部分を変えることで、文の意味を変えられることを確認する。 	<p>フ レ ー ズ カ ー ド</p>
	<p>【Let's Chant】 「What do you want to be ?」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT と児童達で分担をし、HRT は児童と一緒に発音する。班で S1,S2,S3 を担当させるなど楽しく取り組めるパターンを用意する。 	<p>デ ジ タ ル 教 材</p>
	<div data-bbox="335 974 1099 1355" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>ALT : What do you want to be in the future ? Let's close your eyes and think about it. S : I want to be a dancer. I can dance well. S : I want to be a singer. I can sing well. ALT : What do you want to be in the future ? Let's close your eyes and think about it.</p> </div>		
<p>7 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Today's goal を確認する。 <div data-bbox="309 1494 1171 1592" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中学校の先生に、自分達の夢を効果的に伝える表現を工夫しよう。</p> </div> <p>【Let's Listen】「だれの夢か、考えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢について質問し合う様子を聞きながら、登場人物の将来の夢とその理由を聞き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書 P61 の【Let's Listen】のやり取りを聞かせ、内容を聞きとらせるとともに、自分達の発表の参考となる表現に気付かせる。 	<p>児 童 用 テ キ ス ト デ ジ タ ル 教 材</p>
<p>20 分</p>	<p>[Activity] (interview) ・ペアで互いの夢とその理由につ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表につなげるため、互いの夢や理由について尋ね合う。さらに内容を膨ら 	<p>ワ ー ク シ ー ト</p>

いてインタビューをする。

ませるために質問を重ねることを意識させる。

(Activity1)

- ・より効果的に伝えるための発表の仕方を工夫する。

- ・発表の流れを、ペアで組み立てさせる。
- ・効果的に伝えるための工夫をさせる。
- ・前時に作ったフレーズの他に「Why?」や「Who is your hero?」などのフレーズを書いたワークシートを配り、並べながら流れを決めさせる。

ワークシート
図工の作品

◇予想される児童の発表例

- ・表現がうまくつながらないなどの時は、ALTに相談することを促す。

S1.S2 : Hello.

S1 : My name is ○○○.

S2 : My name is △△△.

S1 : This is my dream. (図工の作品を提示する)

I want to be a vet.

I like animals. How about you ?

S2 : This is my dream. (図工の作品を提示する)

I want to be a basketball player.

S1 : Who is your hero?

S2 : My hero is Stephen Curry.

I want to join the basketball team .

S1.S2 : That's all. Thank you.

S1.S2 : Hello

C1 : My name is ○○○.

S2 : My name is △△△.

S1 : I want to be a kindergarten teacher.

S2 : Why?

S1 : I like children. I like playing the piano.

S2 : She can play the piano very well.

S1 : What do you want to be ?

S2 : I want to be a dancer.

S1 : Why?

S2 : I like dance.

S2 : She can dance well.

Good dream.

	S1.S2 : That's all. Thank you.		
5分	<p>(Activity2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組み立てた発表の流れで、発表の練習をする。 ・周りのペアと聞き合い、アドバイスをし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に、声を出して発表の練習をさせる。ゆっくり発音したり、作品を使ったりしながら相手に伝えることを意識させる。 ・周りのペアと互いに聞き合いながら、注意することやもっと知りたいことなどをアドバイスし合わせる。 	
5分	<p>[Looking Back]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習の振り返りをする。 ・振り返りカードを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかのペアを紹介し、ALT がよいところを挙げて賞賛し、自信をもたせるとともに他の児童の参考にさせる。 ・Today's goal が達成できたかを振り返らせ、達成感を味わわせる。 	振り返りカード

◎夢の職業について伝え合い、自分の思いが効果的に伝わるように発表の仕方を工夫している。

【関心・意欲・態度】〈行動観察，振り返りカード〉

◎夢の職業について英語を用いて伝える表現に慣れ親しんでいる。 【慣れ親しみ】〈行動観察〉

10 成果と課題

成果：

- 他教科との連動が大事。図画工作で思いを高めた中で、外国語活動と連動したことがよい。
→道徳の勤労や総合、特活のキャリア教育と連動していくと、理由の所に深みが出てくる。外国語だけでは、深みの所をやっている時間もない。深みの所は英語ではいきなりできない。形だけでなく、中身も連動させると高学年はよりよい。

○目的が設定されていることがよい。これを子どもと共有していることがとても大事。

課題：

● Let' s listen Let' s watch and think などについて

- ・ 3つともやらずに、どれかに絞って、何度も何度も聴かせる。
- ・ 言語活動を通して、ということは、日本語でやりとりをしない。
- ・ わからない言葉があっても、あくまでも聞き取れた英語から、子供たちに意味を推測させること。
- ・ 先生が答えを英語で確認する。先生が日本語で答えを言ってしまわない。
→思考するから覚える。自分で編み出すことをさせる。

●スピーチについて

- ・ 伝えたいことがうまく伝わるように順番を変えたりして考える切り貼りしてとても良かったが、切ることに時間がかかってしまった。切って並べるより前に、まずは子供たちにスピーチをさせて、体感させてやるのが先だったのではないか。
- ・ 自分の短冊を読めない子がいる。読めないものを書いて意味がない。言えるから書いて意味がある。必ず小学校は何回も聞いて何回も言ったことを書き写す。先に単語ありきにならない。
- ・ 必ず音声先。聞いて言って聞いて言って、最後に書くという風に持っていく。言語習得の際、この順番を必ず守る。

●読み書きについて

- ・ 読み書きがもっと負担なく、できるように音声中心で行う。何回も聞いて、何回も言ったことが先。それを書き写す。
- ・ 読んだり書いたりするのは、音声と文字を合わせるための活動。

【4 ブロック全体の成果と課題】

目標の観点	検証場面・検証の方法
①外国語に慣れ親しみ，様々な活動に興味関心をもつ姿が見られたか。または見られるようになったか。(主体的に学ぶ力)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中での様子 ・ワークシートや振り返りシートの記述の内容やその比較
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールを毎時間，明確にしたり流れのをパターン化することで見通しを持ち，安心して授業に臨み，より外国語を身近に感じている。 ・5年生の頃から学んできたことを自分なりに生かして英語を話そうとする姿勢が見られる。 ・自己紹介や自分のヒーローを紹介する際に目的意識を持って取り組んでいた。 ・外国語だけでなく，文化に違いや時差等についても学び，興味関心を深めていた。 ・伝え合ったり発表したりすることを，相手や目的を意識させることで丁寧な取り組みが見られ語彙を増やしたり発音の仕方を意識したりするなど主体的な取り組みが見られた。 ・リスニングの場面では「One more , please. 」などと要求し，きちんと聞き取ろうとする姿勢が見られた。 ・校内の掲示により日常的に外国語に触れる機会をもたせることができた。掲示を見ながら，口に出して発音している姿も見られ，興味関心が高まっていることを感じた。 ・ゲーム・チャンツ・ソングを取り入れた活動は，いずれも児童の興味をもつことにつながり，楽しく活動できた。また，既習の学習内容は定着し，子どもの主体的な活動へとつながっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しみにも個人差が出てしまう。 <p>【まとめ】</p> <p>積み上げられてきた学習内容を使って，次の課題に取り組もうとする姿勢や，ゴールの設定，流れのパターン化といった授業の工夫・廊下への掲示物による環境の整備により，外国語に慣れ親しんだり，関心や興味をもつようになった。</p> <p>教科として移行する中で，学力としての定着が求められる。今まで以上に丁寧に慣れ親しませる必要がある。</p>	

目標の観点	検証場面・検証の方法
<p>②人とコミュニケーションを図り，学び合う姿が見られたか。または見られるようになったか。（相手意識を持ち，人と関わり学び合う力）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中での様子 ・ワークシートや振り返りシートの記述の内容やその比較
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手とコミュニケーションをとるときに気をつけること（ゆっくり話す・ジェスチャーなど）を意識して活動していた。 ・題材や，教材の工夫により，コミュニケーションを楽しむ姿が見られた。 ・FET に発音を褒めてもらったり，互いに認め合ったりすることで気持ちの高まりを感じ，学び合いができる雰囲気を作り出している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の場面でもコミュニケーションが難しい児童にとって，外国語での伝え合いはハードルが高い。パターン化したやり取りの中で，気持ちを楽にしてあげることが有効である。 ・発語に抵抗がある児童への指導に難しさを感じる。 ・やり取りの場면을活性化するためには，相手意識を持たせることが必要であり，国語科を始め，全教科・領域の中でも育てていきたい。 <p>【まとめ】</p> <p>やり取りをパターン化することで，普段の生活の中でコミュニケーションを得意とする子どものハードルを下げる効果があった。互いに教え合ったり，認め合ったりする活動も自主的に行われている。</p> <p>パターンから一歩抜けて，自由な対話・コミュニケーションへつなげていくことが今後の課題となる。外国語を話す必要を感じさせる場面設定を工夫することや自分の思いを伝える指導について他教科でもその力をつけさせていくことで，さらに力をつけさせたい。</p>	

目標の観点	検証場面・検証の方法
<p>③自分の思いを伝えられ、達成感を感じられていたか。または感じられるようになってきたか。(自己実現しようとする力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中での様子 ・ワークシートや振り返りシートの記述の内容やその比較
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その時間のゴールが明確になっていることで、授業の最後の振り返り時に、できているときには達成感を感じることができる。できていないとき次時の課題とする姿勢が見られる。 ・小グループでの活動や簡単なやり取りをする際に、自分の思いを伝えるための表現を自分なりに工夫したり、FETに質問したりする場面が見られた。 ・スピーチの時「文におこし、発表する。」という段階を踏むことで達成感を感じる様子が、振り返りカードの中から読み取れた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識に個人差があるので、苦手意識を持ち児童は、より簡単な表現を選んでしまう傾向がある。 ・英語でのコミュニケーションの楽しさを味わっているという段階であり、自分の思いを伝えるまでには到達できていない。児童の中にも戸惑いやジレンマが感じられる。 ・「必然性があるって発信する」という場の設定を作ることが少なかった。 <p>【まとめ】</p> <p>まだまだ到達するには至っていないものの、コミュニケーションを楽しむ姿が見られ、素地が養われている。</p> <p>コミュニケーション活動における自己実現とは、双方の間にインフォメーションギャップがあり、その解決を会話により図ることと考える。場面設定、児童の興味・関心、英語レベル等に配慮した教材を選び、場面を設定していくことが大切になる。コミュニケーションを楽しんでいるという素地の上に、積み上げていきたい。</p>	